

岸壁を供用しながらの増深・耐震補強技術(二段タイ材地下施工法)の開発が土木学会技術開発賞を受賞しました。

仙台塩釜港仙台区では、東北における自動車産業の拠点化に伴い増加する完成自動車等の効率的な輸送を可能とするため、平成21～24年度にかけて、岸壁水深7.5mを9.0mに増深改良(内1施設分を耐震化)する事業を進めており、平成22年11月には第2バースを完成・供用しています。

仙台港は掘込式港湾として整備された経緯から、航路・泊地のスペースが限られており、岸壁を前出しする一般的な増深改良工法が採用出来ない状況にあります。また、雷神埠頭は自動車やシャーシを輸送するRORO船の他、新幹線車両など多種多様な貨物を扱っており、その利用を妨げることなく施工することが求められるため『二段タイ材地下施工法』により実施しました。

この度、この工法の技術開発にたずさわった関係者に対し、土木学会技術開発賞が贈られましたので、お知らせ致します。

